

1 自己評価

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200180		
法人名	医療法人 恵和会		
事業所名	グループホームたじま 1階		
所在地	岡山県倉敷市児島柳田町991-1		
自己評価作成日	H30年2月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	y.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3390200180-008&PrefCd=33&Ver
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成30年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>母体が医療機関であり指定看護師(正看)により看護管理を行い、医師と連携を図りながら健康管理に努め敏速な対応ができる体制が整っています。</p> <p>また、恵和会の理念に基づき入居者様が生き生きと安心して暮らせるように支援、ご家族様も気軽に來ていただける環境にしています。</p> <p>毎朝、日課として体力維持のため集団体操を行い、地域交流、四季を通して企画した行事は入居者様同士の交流を深め楽しんでいただいています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>H19年に開設したホームはH29年4月で10年目に入った。母体が医療機関ということもあり、医療と介護の連携もよく、手厚い介護サービスが受けられるのがこのホームの特長であり、毎年のように誰かの看取りをして見送り、また新しい利用者を迎えるという営みが繰り返されてきた。入所してまだ日が浅いという90代後半の男性利用者は創作意欲が旺盛で、リビングの一角にある和室を自分の仕事場と決めて、一人もくもくと創作活動に励んでおり、クラフト、塗り絵等の見事な作品がずらりと並ぶ。職員も全面的に応援しており、3月中旬に倉敷である「セレマ塗り絵コンテスト」に応募する予定と聞いた。介護業界を取り巻く情勢は深刻な人手不足等、以前厳しいものがあるが、職員は一致団結して利用者に喜んでもらえるように、笑顔で楽しい時間を過ごしてもらえるように誠心誠意を込めて支援している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットの共有空間に掲示している。職員全員で話し合う機会を設けて実践に繋げるよう支援している。独自の理念を作成して実践に努めている。	各ユニット毎に理念を定め、事務所やリビングに掲示して職員間で共有し、意識付けをしている。どちらも利用者の笑顔あふれるホーム作りを目指しており、開設10年目に入った今年度は更に、今まで以上に外出を増やして、笑顔で楽しい時間を過ごしてもらえるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	随時地域の催し事に声をかけて頂いたら参加している。	ホーム前は小学校の通学路になっており気軽に立ち寄ってくれる児童もいて「かけこみ110番」の役割を果たしている。地域の秋祭りや清掃に参加したり、散歩の途中で挨拶を交わす等、地域とのつながりも深く、日頃から地域交流が出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を発行して家族、地域の方、母体の病院に配布して理解や支援に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域、高齢者支援センター、介護保険課、他G. H、主治医、看護師に参加してもらい、日常生活の様子、行事、今後取り組んでいく内容を報告して意見交換を行ないサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、参加者は多彩なメンバーで構成されており、母体病院の院長の参加もある。活動報告をしたり、毎回様々な議題について話し合い活発な意見交換をしている。議事録は共有スペースに置いて自由に閲覧出来るようにしている。	平日開催では家族の参加が難しいという状況にあるが、時には行事に併せて会議をして一人でも多くの家族の参加が得られれば有り難い。また、リスク面の報告もして参加者で意見交換をして欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加した方以外に、年2回、地域の清掃に参加して必要に応じて指導を受けている。	家族から質問のあったケアプランの署名の件で市の担当者に相談し、「署名欄に本人・家族両方の署名があってもかまいません」と回答をいただいた。何かあればその都度、市の担当者に相談して助言や指導を受けており、日頃から連絡を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様にとって何が拘束にあたるか、今行なっている行為は拘束にあたらぬか等常に意識しながら支援に努め、ホーム内の勉強会で共有認識を図っている。	玄関は日中はオープンにしているが、各ユニットから外に出る扉は緊急時のみ施錠している。帰宅願望よりは「ここに泊まらせてくれる？」と言う人が多いと聞いている。スピーチロックも含め、拘束をしないケアを徹底しており、研修をして職員間で意識付けをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加して資料を配布したり、会議の時に話し合いの場を提供して知識を反映するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な時には管理者が一人対応しているが、他の職員も理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時一方的にならないように説明して理解、納得していただきサービスを開始している。改定や変更がある時は随時説明して承諾を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様は日常生活に関わりながら、家族には手紙や面会時に意見、要望を言ってもらえる雰囲気作りに努め、また会議で意見交換して反映させている。	各利用者の写真を掲載した手紙「ホームだより」を毎月請求書と一緒に家族に送付している。家族の面会時には状況報告等をしてよく話し合うようにしているが、遠方の家族には電話やメールで連絡を取り合い、その中で意見や要望を聞くように努めている。	運営推進会議に家族の参加が得られていない現状なので、面会時だけでなく、遠方の家族にも対応やサービスに関する意見や要望を出してもらえる機会を作る(家族アンケートを実施してみるとか)等、工夫を重ねて欲しい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションをとり、職員が言いやすい環境作りに努めている。毎月の会議で意見交換を行なっている。	各ユニット毎で毎月ケア会議をして、ケア、行事、業務等様々な課題について職員間で話し合っている。職員体制が厳しい状況下にあっても、お互いに協力し合い、職員同士で何でも言い合える雰囲気がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の要望や意見を聞き、随時代表者に伝えている。資格取得に向けた支援も積極的に行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は多くの職員が参加できるように心がけている。会議で報告し技術の向上に努めている。同じ恵和会のGHから研修に行けなかった資料をもらってスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は少数の事業所しか交流がないので機会があれば学習会や交流をする機会を設けて質の向上に繋がれたらと思っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族に情報を聞きながら日々関わりを持つことで馴染みの関係を作り、本人の思いを組み取りながらその思いに寄り添い、安心して過ごすことができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や意見を聞いてホームでどのような対応が出来るか、連絡を取り合い関係作りを築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望、思いを聞きながら、状況に応じた支援をして信頼関係を築くようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることと出来ないことを見極め、出来ることは役割として行なってもらい、お互いに助け合い感謝の気持ちのを意に表わしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告をしながら家族と協力、信頼関係を築き、面会時、ゆっくりと過ごす時間を提供して、家族にしか話せない事の情報を共有するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ほとんどの入居者様が地域の方なので、外出は馴染みの場所に出掛ける機会を多く提供している。行事に参加して馴染みの方との交流に努めている。	ユニットは違うが夫婦で一緒に入所している人もいれば、以前デイサービスで一緒だったという利用者同士もいる。母体病院への受診時には地域の人や馴染みの人と出会う機会も多く、利用者にとっても良い刺激となっていて、職員も馴染みの関係を大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しく過ごせるように入居者様同士の関係を把握し、孤立しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談、依頼があれば支援に努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを図りながら思いをくみ取るように努めている。意思疎通が困難な方は生活歴の把握はもちろんご家族からの情報を聞いたり表情からも組み取るように努めている。	夜間帯は比較的マンツーマンで会話がし易く、利用者の思いや意向を聞く機会があり、申し送りの時に職員間で話し合い情報の共有をしている。最近入所したという90代後半の男性は、自分なりの生活意識を持って意欲的に創作活動に専念しており、職員もその人をしっかり支えていた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や関係者からの情報や、日々の会話をヒントに把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康状態はその日によって違うので把握しながら、基本的に一人ひとりの過ごし方はその日に聞きながら記録に残し次の日に繋げていくように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族に意見や要望を聞いて、月1回の会議で話し合いの場を設け、より良く暮らしているように作成している。また状態が変わるのでその都度意見を言う場を設けている。	状態の変化がなく元気な人には、定期的なケアプランの見直しや更新をしており、毎月ケアプラン実施表に記入し、モニタリングをして次回のプランにつなげている。現在ターミナルの人が数名いる状況なので、主治医・看護師・家族とも話し合い、現状をよく把握しながら状態に合わせてケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別に1日の暮らしの様子を記録している。他に医療ノート、連絡ノートで情報共有、意見交換をして介護計画を見直せられるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族、医師、看護師等の他職種と連携しながら対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	母体の病院を中心に地域包括支援センター、老人クラブ会長との意見交換や、理容サービスを利用しての支援。小中学校の通学路でもあり駆け込み110番の連絡場所でもあるので自然に交流ができています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診、受診の支援。サービス開始時にかかりつけの医者を確認、選択をしてもらう。かかりつけの病院に受診する際は必要に応じて情報提供を行なっている。	母体病院の院長が利用者のかかりつけ医であり、受診には状態をよく把握している職員が同行しているが、他科受診は原則家族に付き添いをお願いしている。定期的な往診があり、ターミナル期や緊急時にはいつでも対応してもらえ、職員である元看護師長の存在も心強い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週5日、看護師に健康管理や体調の状態を報告して早期発見に努め適切な医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	その時の状態に応じて本人、家族の意向を聞いたうえで随時医療機関と連携して支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族、本人に意向を聞いて対応に努めている。重度化に直面した時点で、再度、確認して意向に添って支援している。	母体が医療機関であり、医療と介護の連携がよく取れているので、「ホームで最期を」と希望する本人・家族も多く、この2年間でも数名の看取りを実施した。現在も2名終末期ケアの人の支援をしている。看取りを終えた家族から「実家に帰って来たようだったのになれなくなって寂しい」という言葉も頂き、元家族とお付き合いも続いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルは事務所に掲示して意識確認を行なっている。必要に応じて医師、看護師に報告、指導していただき知識を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、地域、家族の方に参加してもらい、消防署職員の指導のもと避難訓練、消火訓練を行ない、迅速かつ確実に誘導出来るよう訓練を行なっている。また、地震対策のマニュアルも作成して体制を整えている。(消防署は年1回立ち合いにて実施)	消防署立ち会いの下の避難訓練では「絨毯やカーテンは防災を使用」の指導があり、家具類も避難ルート確保の為に移動させた。消火器使用の訓練や階段やエレベーターを使つての避難等、全員参加で行なっている。地震に備えて家具の固定も施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様、一人ひとりの性格や日常生活を把握し自尊心を尊重しながら個々に合った対応を行っている。	各居室にはトイレと洗面台が設置されているので、排泄時のプライバシーや羞恥心に対する配慮は出来ている。重度化した人は日中はリビングの共用トイレを使用しており、戸やカーテンを閉める、ひざ掛けをする等の配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	さりげない日常会話から思いをくみ取り支援。意思表示が出来ない方は家族からの情報や表情からくみ取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	必要に応じて業務優先になることもあるが、出来る限り本人ペースで暮らしていただけるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわっているスタイルを把握し、職員は見守り、必要な時は支援している。また、季節に合った服装の支援と清潔保持に心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れ、誕生日には希望食召し上がっていただいている。お盆拭きや食器洗い等の家事作業はできる事をしてもらってる。	「美味しいものを食べる日」を設けていると聞いている。2階ユニットでは利用者のリクエストに応じて、揚げたての「から揚げ」を皆で美味しくいただいた。その人の食事形態に合わせてミキサー食や一口大のおにぎりにして提供している人もいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を記録。個別に健康状態、嚥下、咀嚼能力に応じて調理に工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の状態に合わせてうがい、歯磨きを声かけ介助で行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意の排泄パターンを把握し、声かけ、誘導を行ない出来る限りトイレで排泄出来るよう支援している。	布パンツで排泄が自立している人は自室のトイレを使用し、紙パンツやパット使用の人の中には尿意があり自分でトイレに行く人もいるが、殆どの方は排泄リズムを見ながら、タイミングを見計らって声かけしトイレに誘導している。ホットタオルで排泄後の清潔保持をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を確認しながら、食物繊維や乳製品(手作りヨーグルト)、集団体操、水分補給で対応している。また、医師の指導の下で緩下剤で排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は決まっているが本人ペースで、脱衣所の温度、湯の温度、入浴剤を入れて気配りをしている。	1階の浴槽にはバスリフトが取付けてあり、安全に入浴出来る。入浴拒否があり、入るまでが大変だが入ってしまえば気持ち良く、週2回は入浴出来ている人もいれば、視力が弱くて不安が強く不穏状態になる人は清拭で対応する等、その人の状態に合わせて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体力、体調に合わせて休息が取れるよう支援している。昼夜逆転しないように日光浴をしたり散歩をして生活のリズムを整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示の下、薬剤情報提供書を確認し理解を深め、変更がある時は医療ノートに記入して共有して、症状を観察して異常の早期発見に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることと出来ないことを見極めながら、本人に負担がかからない支援を行っている。また個人差があるので周りの状況を把握しながら自尊心を尊重して支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は外出する機会が少なくなってきた。家族と出かける入居者様には近況報告して本人の意向を伝えている。	高齢化・重度化の人が増え、職員体制も考えて最近では外出する機会が減ってきているが、初詣・桜・つつじ・コスモス・紅葉見学やドライブ等、花を鑑賞し自然の中で過ごせるように出来る限り外出する機会を設けている。「明日は雛祭りを見に行くんだ」と嬉しそうに教えてくれる人もいた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には家族よりお金を預かり事務所で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	随時、要望があれば支援しているが、家族の要望により電話のかけられない方は職員が変わりに電話を掛けて本人の意向をお伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度調節を行い、入居者様同士が会話が弾むような空間を確保している。掲示物は、毎月の行事や季節感を取り入れて工夫している。	ベランダからは開放的な景色が広がり、日光浴や外気浴を兼ねてお茶を飲んで過ごす事もある。リビングの一角にある畳のコーナー(和室)を自分の仕事場のようにして創作活動に専念している人やマイク片手にカラオケを楽しんでいる人達等、それぞれに自分の好きな事をして過ごしており、寛げる環境作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者同士、席は一緒にしているが、定期的に席替えをして気分転換を図ったり、一人になりたい方は自室で過ごせる環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具等持ち込まれている方、家族の写真、手紙、創作活動での作品を飾っている。	和室と洋室があり、和室は退所ごとに畳を新しく替えている。自宅からテレビ、カーペットその他使い慣れた物を持ち込み、冷蔵庫の中には好きな飲み物が入れてあり、これまでの生活の延長線の環境を維持している人もいる。どの部屋もその人らしい落ち着いた空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には表札を掛けわかりやすくしている。居室内は転倒の危険がある入居者様は職員が検討して安全性を重視して動線の確保、共有空間は安全のため物の配置に気を配っている。		